

中学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

平成 13 年 度

教 育 研 究 員 名 簿 (総合的な学習の時間)

地 区	学 校 名	氏 名
中 央 区	銀 座 中 学 校	加 藤 正 浩
目 黒 区	第 五 中 学 校	久 保 田 啓 介
中 野 区	中 央 中 学 校	櫻 井 匡 佐
板 橋 区	上 板 橋 第 三 中 学 校	○ 益 子 文 彦
荒 川 区	第 七 中 学 校	笠 さわ子
足 立 区	入 谷 南 中 学 校	大 澤 隆 志
江 戸 川 区	鹿 本 中 学 校	安 田 昭 仁
立 川 市	立 川 第 七 中 学 校	齋 藤 久
三 鷹 市	第 七 中 学 校	◎ 清 水 実
多 摩 市	聖 ヱ 丘 中 学 校	飯 村 東 毅

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 村 上 みな子

目 次

I	主題設定の理由	2
II	研究の概要	3
1	仮説の設定	3
2	研究の内容・方法	3
3	研究の構想図	4
III	「総合的な学習の時間」に関する実態調査	5
1	各学校の実施状況	5
2	教師の実態	6
3	生徒の実態	6
4	考察	7
IV	「総合的な学習の時間」のカリキュラムデザインの考え方	8
1	柔軟なカリキュラムづくり	8
2	単元計画と柔軟な学習計画の構想	8
V	「総合的な学習の時間」の流れと3つの研究の視点	9
1	課題設定の工夫	10
2	発表の工夫	11
3	評価の工夫	12
VI	実践例	13
1	課題設定の工夫	13
2	発表の工夫	16
3	評価の工夫	18
	資料1(自己評価カード・相互評価カード・教師の補助簿)	20
	資料2(自己評価カード)	21
VII	成果と課題	22
1	成果	22
2	課題	23
3	提案	24

一人一人が学習意欲に支えられ楽しく取り組む「総合的な学習の時間」の創造

—課題設定・発表、評価の工夫を通して—

1 主題設定の理由

近年、教育改革が積極的に推進され、学校教育は大きな転換期を迎えている。そして、いよいよ平成14年度から学校週5日制が実施され、各学校では、新学習指導要領のもとに子どもたち一人一人に「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことをねらいとして、特色ある教育活動が展開されようとしている。今回の改訂の特色として、従来の教科等の学習に加えて「総合的な学習の時間」が創設されたことである。「総合的な学習の時間」のねらいは、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」である。これは、「生きる力」をはぐくむことを直接的にねらいとしており、各学校は「総合的な学習の時間」の趣旨、ねらいを十分に理解し実践していかなければならない。しかしながら、移行期2年目を迎えた各学校には、学校、教師、生徒がそれぞれの立場での課題を抱えて実施している状況がある。その要因は、目標や内容が各学校に任せられていること、生徒の体験を重視した課題解決型の学習が求められていること、学習活動の範囲が学校外へと広域となること、家庭、地域との連携強化が不可欠となることなどがあげられる。このように、教師の専門的な教科指導だけでなく、学校あるいは学年みんなで取り組む指導形態への対応や学習内容の大きな広がり、体験・交流・調べ学習に対する経験が不足していることが、「総合的な学習の時間」の円滑な実施に課題を投げかけていると推察できる。今回実施した実態調査から、学校は評価やカリキュラム作りに、教師は指導方法に、生徒は学習活動にそれぞれ戸惑いを感じていることが伺える。

本年度の研究員月例会において、「生徒が『総合的な学習の時間』はつまらないと言っている。」という発言があった。そして、その発言に対する説明が瞬時には出ない状況から、本研究はスタートした。教師はこれまでも、意欲をもって生き生きと学習する生徒の姿を求めて、日々授業を実践してきた。しかし、授業での生徒の実態を振り返ってみると、教師の願いと実際の生徒の活動にはずれがあることに気付くことがある。「総合的な学習の時間」の実施についても、趣旨・ねらいを理解し、実践を工夫しても思うような成果が得られない状況があることから、問題意識をもって、これまでの取り組みとのずれの修正を図る必要がある。そのために解決すべき課題を明らかにするために、実施状況に関するアンケートを行った。その結果、「総合的な学習の時間」の活動において「課題が決まらない。発表するのがきらい。」などの生徒のつぶやきが聞こえてきた。そこで、このような問題を解消し、生徒が楽しく学習に取り

組むための教師の支援の工夫・改善に努めることが課題であると考え、生徒一人一人が学習意欲に支えられ楽しく取り組む「総合的な学習の時間」の創造を目指し、課題設定・発表、評価の工夫を視点として研究を進めることとした。

II 研究の概要

1 仮説の設定

研究を進めるに当たり、学校・教師・生徒を対象にアンケート調査を実施し、「総合的な学習の時間」の各学校の実施状況を把握することで、生徒の学習過程における具体的な課題が明らかになった。その中で、特に工夫を要する場面を検討し、次のような仮説を立てた。

— 仮 説 —

「総合的な学習の時間」において、課題設定、発表、評価の工夫を行うことにより、生徒の学習意欲は高まり、生徒一人一人は、楽しく体験的な学習や問題解決的な学習に取り組むことができるであろう。

2 研究の内容・方法

(1) 実態調査の実施

「総合的な学習の時間」の各学校の取り組み状況を把握するために、学校、教師、生徒を対象にしたアンケート調査を行った。「総合的な学習の時間」の実施について、学校の実施状況、教師の意識、指導上の課題、生徒の意識、学習活動上の課題など、学校、教師、生徒のそれぞれの視点で「総合的な学習の時間」の実施上の問題点を明らかにした。

(2) 課題設定の工夫

生徒が、自己の学習計画をもとにまとまった時間を継続して学習できる課題とはどのような課題なのかを、指導者側から検討した。また、そのような課題をどのように発見し、どのように決定していくのかなど、教師の効果的な支援・指導について、課題設定から課題決定までの過程で具体的に示した。

(3) 発表の工夫

「発表とは」「なぜ発表するのか」など発表の意義・ねらいを明確に示し、発表が生徒にどのような学習効果をもたらすのかを明らかにした。また、生徒一人一人の学習過程における効果的な発表の場面設定の仕方や発表の準備や多様な発表形態など、教師が配慮すべきことや具体的な支援・指導について研究した。

(4) 評価の工夫

「総合的な学習の時間」は、生徒一人一人が自己の決定した課題の解決に向けて、自らの学習計画のもとに活動を展開するため、生徒は自己の学習活動を常に振り返り、自己評価をすることで自己の学習活動を意識し改善していく必要がある。そこで、自己の学習過程の記録を蓄積していくポートフォリオを活用した評価を取り上げ、生徒の自己評価活動を中心に、相互評価、教師の評価を工夫し、検証授業の中で有効性を検証した。

3 研究の構想図

学習指導要領改訂の基本方針
 豊かな人間性・社会性・国際性 | 自ら学び自ら考える力 | 基礎・基本の定着と個性化 | 特色ある教育・学校づくり

**ゆとりの中で
生きる力を育む**

《子どもの実態》

- ・いじめ、不登校などの問題
- ・人間関係の希薄化
- ・耐性の欠如
- ・社会性、規範意識の希薄化
- ・体力の低下

自ら学び自ら考える力

豊かな人間性

健康・体力

《社会の変化・要請》

- ・科学技術の進展
- ・情報ネットワーク社会
- ・経済、社会のグローバル化
- ・地球環境問題
- ・少子高齢化・男女共同参画社会

「総合的な学習時間」の創造

ねらい

よりよく問題を解決する力を育てる

学び方や考え方を身に付ける

主体的、創造的に取り組む態度を身に付ける

自己の生き方を考えることができる

《新しい学校像》

- ・地域に開かれた学校
- ・特色ある教育活動が実践される学校
- ・地域のコミュニティの中心となる学校

《目指す生徒像》

- ☆身の回りの自然、社会に興味・関心をもち、自分の課題をもてる生徒
- ☆自ら学習計画を立て、学ぶことのできる生徒
- ☆自分の課題を追究し続ける生徒
- ☆仲間と協力、励まし、認め合いながら学習する生徒
- ☆豊かに自分を表現できる生徒
- ☆進んで人とコミュニケーションを図れる生徒
- ☆自分の良さや成長を見つめることができる生徒

《求められる教師像》

豊かな人間性 | 専門性 | 指導力

- ☆深い子ども理解
- ☆豊かな発想と柔軟な思考力
- ☆広い視野と創造力
- ☆多様な学習に対応できる支援・指導技術
- ☆学習の全体像を把握・予測・見通す力
- ☆地域とのコミュニケーション能力
- ☆情報収集、活用、発信する力
- ☆絶え間ない授業改善
- ☆外部協力者の有効活用能力
- ☆教材開発能力

＜研究主題＞
 一人一人が学習意欲に支えられ楽しく取り組む「総合的な学習の時間」の創造
 — 課題設定・発表、評価の工夫を通して —

《仮説》
 「総合的な学習の時間」において、課題設定、発表、評価の工夫を行うことによって、生徒の学習意欲は高まり、生徒一人一人は、楽しく体験的な学習や問題解決的な学習に取り組むことができるであろう。

研究の方法・内容

<p style="text-align: center;">＜視点1＞</p> <p style="text-align: center;">課題設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定から課題決定の過程における教師の支援の工夫。 	<p style="text-align: center;">＜視点2＞</p> <p style="text-align: center;">発表の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表することの意義の明確化、発表までの過程への支援、多様な発表方法の提示。 	<p style="text-align: center;">＜視点3＞</p> <p style="text-align: center;">評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ評価の開発と自己評価、相互評価、教師の評価の効果的方法の検討、考案。
---	---	---

検証授業

<p>第2学年 学校共通テーマ：「自ら切り開く進路学習」 単元名：「商品開発」</p>	<p>第3学年 学校共通テーマ：「生き方を考える」 単元名：「職場体験」</p>	<p>第2学年 学校共通テーマ：「地域に生きる」 単元名：「銀座を知ろう」</p>
---	--	---

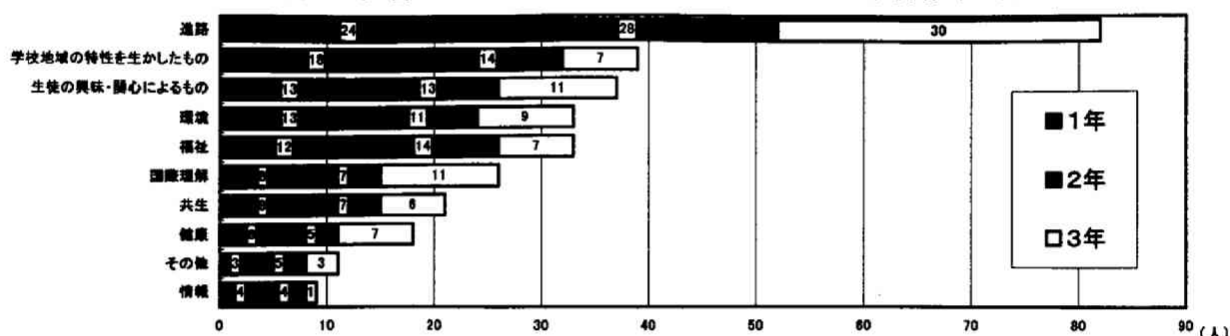
《研究のまとめと評価》 成果と課題、提案

III 「総合的な学習の時間」の実態調査

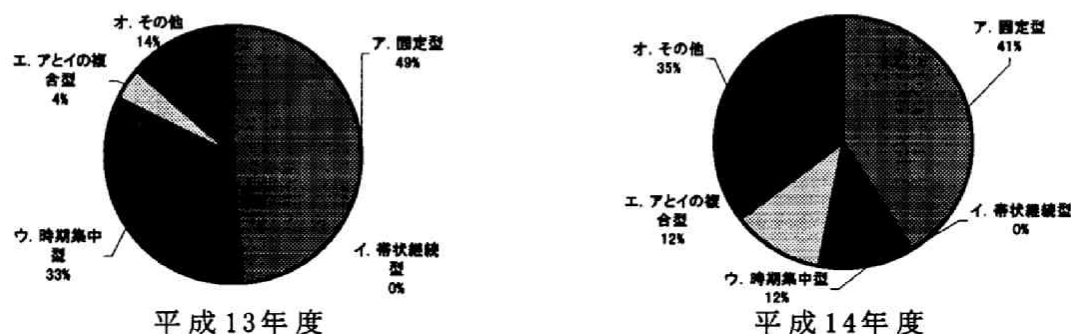
研究を進めるに当たり、「総合的な学習の時間」に関するアンケート調査を学校・教師・生徒を対象として、都内61校の中学校の協力により実施した。対象人数は教師104人、生徒1664人、実施期間は9月に行った。「総合的な学習の時間」は「総合」とした。

1 各学校の実施状況

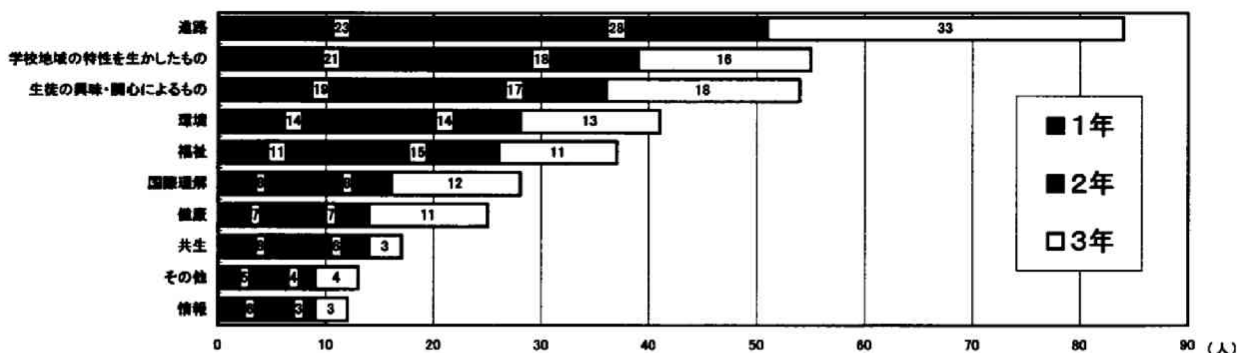
(1) 平成13年度の学習テーマの実施状況について（複数回答可）



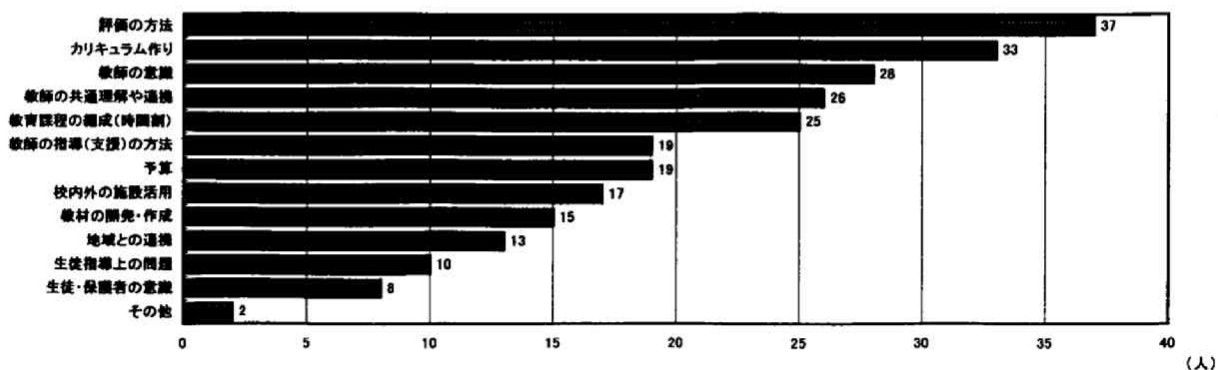
(2) 平成13年度・14年度の週時程について



(3) 平成14年度の学習テーマの実施予定について（複数回答可）

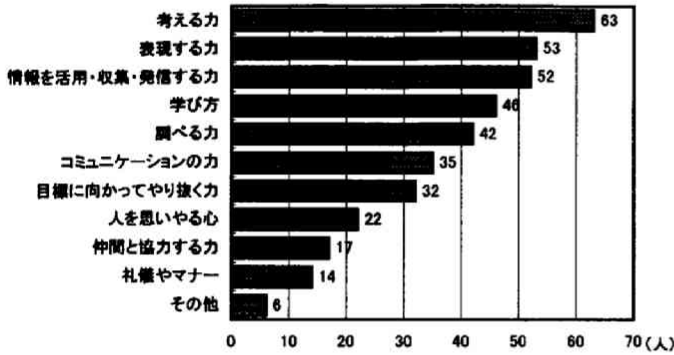


(4) 「総合」の実施上の課題について（複数回答可）

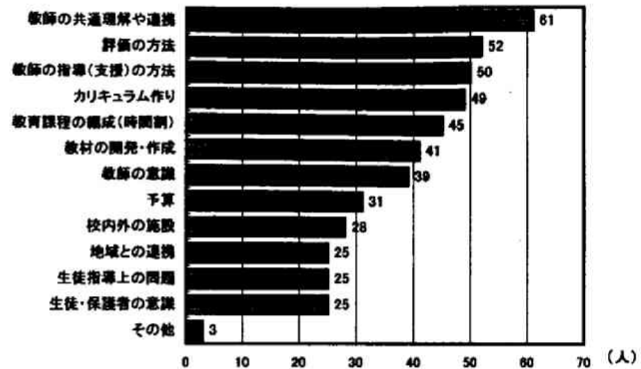


2 教師の実態

(1) 「総合」により身に付けさせたい力について（複数回答可）



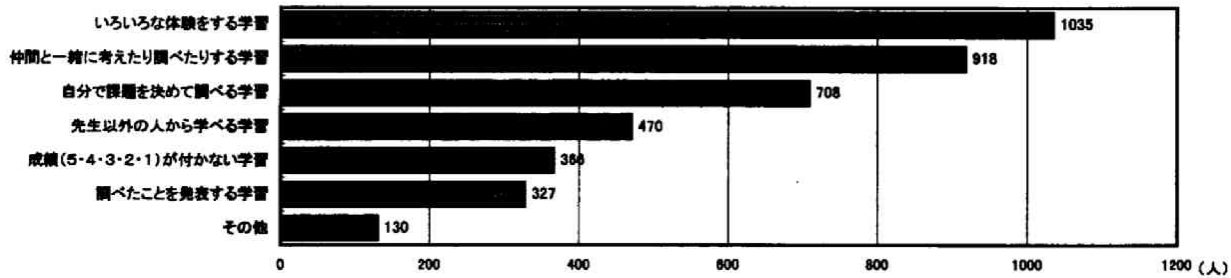
(2) 「総合」の実施上の課題について（複数回答可）



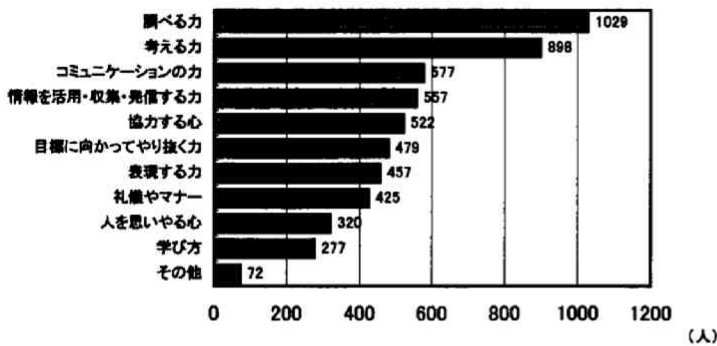
(3) 「総合」の実施上の疑問や不安の有無について
ア. ある(96%) イ. ない(4%)

3 生徒の実態

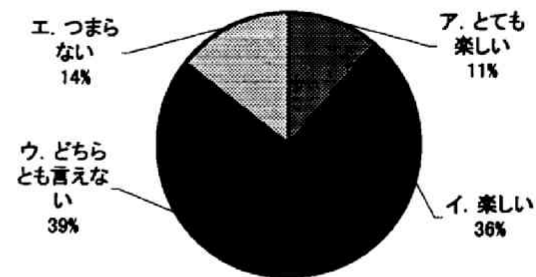
(1) 「総合」をどのように考えているかについて（複数回答可）



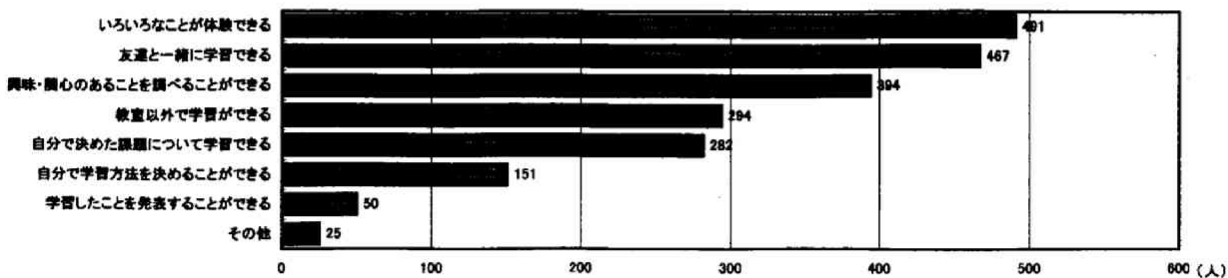
(2) 「総合」により身に付く力について（複数回答可）



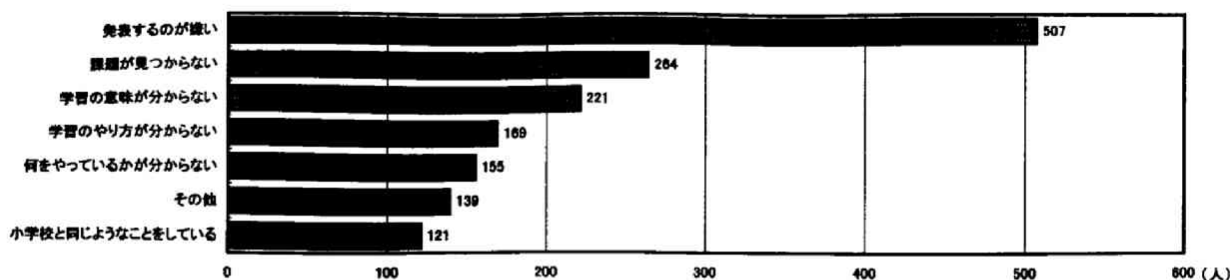
(3) 「総合」の考えについて



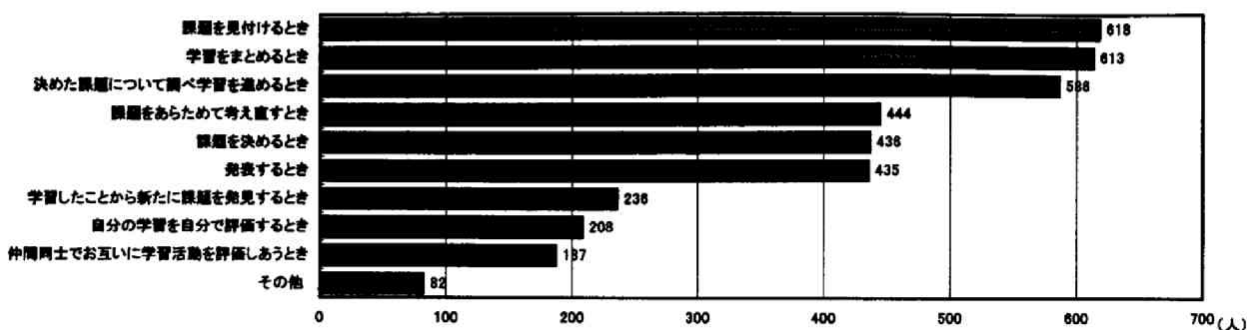
(4) (3)でア・イを選んだ人の理由について（複数回答可）



(5) (3)でウ・エを選んだ人の理由について（複数回答可）



(6) 「総合」の学習を進める上で、先生にアドバイスを求める場面について（複数回答可）



4 考察

○ 学校の実施状況

ア (1)、(3)からの今年度の学習テーマの実施状況は、進路が最も多く、次に学校・地域の特性を生かした学習内容、生徒の興味・関心によるものなどが続く。来年度も引き続き同ような傾向が見られる。

イ (2)から今年度の週時程は実施時数の関係から固定型が多く、来年度は固定型、期間集中型がともに減り、その他が増えており、その内訳は、固定型と期間集中型の混合型を考えている学校が出てきている。

ウ (4)から学校の課題として、評価の方法、カリキュラム作り、教師の意識、教師の共通理解や連携がある。各学校として学習テーマについては決まっているが、カリキュラムづくりや評価に対する取り組みが課題となっている。

○ 教師の実態

ア (2)、(3)から課題は、教師の共通理解や連携、評価の方法、教師の指導(支援)の方法などをあげている。多くの教師が「総合的な学習の時間」に不安や戸惑いを抱いているのは、移行期2年目であり「総合的な学習の時間」の指導経験が浅いことが考えられる。

イ (1)から教師は、考える力、表現する力、情報を収集・活用・発信する力などを身に付けさせたいと考えている。

○ 生徒の実態

ア (1)、(2)、(4)から生徒は、「総合的な学習の時間」を体験的学習や仲間と考えたり調べたりする学習、自分自身で課題を決めて調べる学習と考えている。生徒は、「総合的な学習の時間」のねらいをつかんでおり、調べる力、考える力が身に付くと感じている。また、「友達と学習に取り組むこと」、「体験をすること」、「興味・関心のあること」について学習することに楽しさを見出している。

イ (3)、(5)、(6)からとても楽しいと感じている生徒が47パーセントいる。どちらとも言えないという生徒が38パーセントである。楽しくないときの要因として、発表するときが多く、次に課題が見つからないことをあげている。また、生徒は課題を見付けるとき、学習を進めるとき、まとめるとき、発表するとき教師の支援を求めていることが分かる。

以上のことから、研究内容を**課題設定・発表・評価**に視点を置いて本研究を進めることとした。

IV 「総合的な学習の時間」のカリキュラムデザインの考え方

1 柔軟なカリキュラムづくり

「総合的な学習の時間」は、「ア よりよく問題を解決する能力を育てる。イ 学び方やものの考え方を身に付けさせる。ウ 主体的・創造的に取り組む態度を育てる。エ 自己の生き方を考えさせる。」をねらいとして行われるものであり、必修教科とは異なる特性をもつ。その違いを明確にした上で（表1参照）総合的な学習の時間を実施することが大切である。

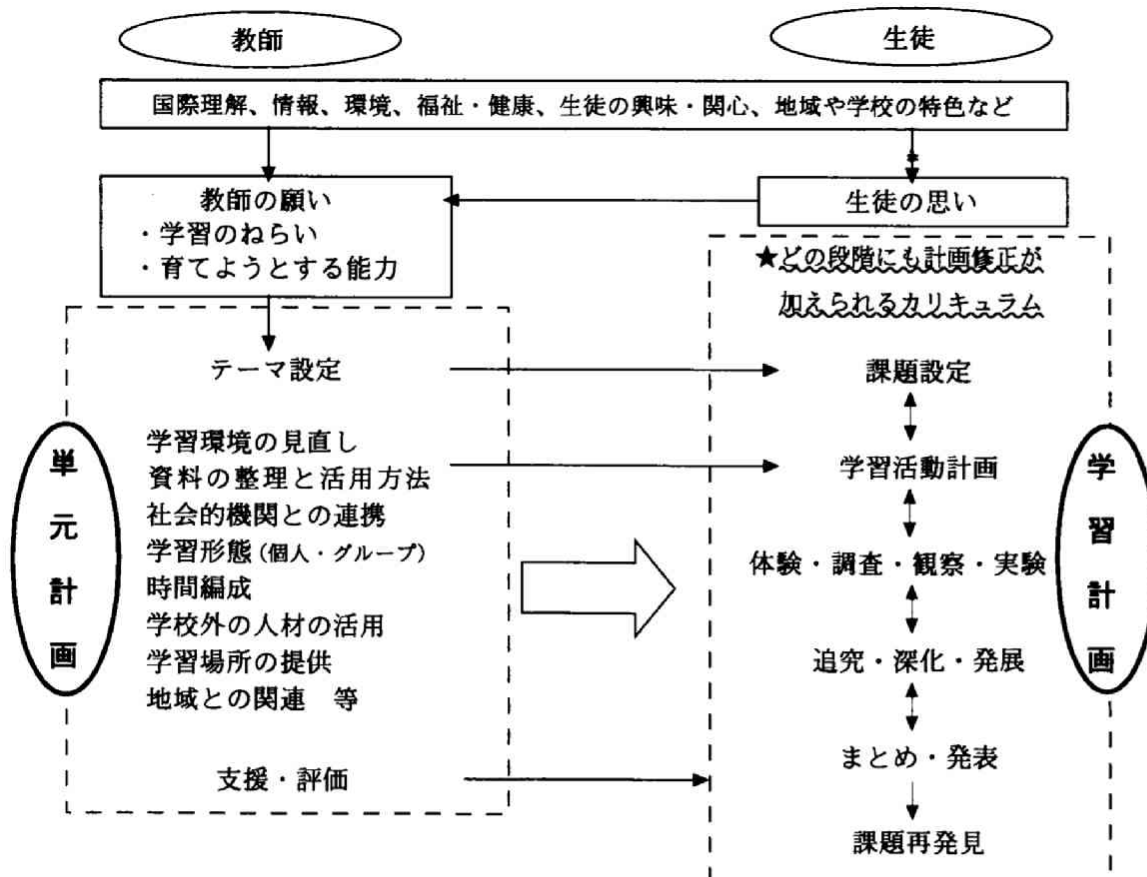
また「総合的な学習の時間」においては、体験的な活動を学習に積極的に取り入れることが、総則第1章第4の5に配慮事項として示されている。生徒が実際に体験や活動を行うと、今まで気付かなかった発見や、予想しなかったような出来事があり、それが新たな課題へと発展したり、設定した課題を修正することが必要になることがある。このような場合を想定し、計画である単元計画と、生徒の活動の結果修正される計画である学習計画という2段階で、下図に示したように柔軟なカリキュラムを考える必要がある。

表1 教科学習と「総合的な学習の時間」の違い

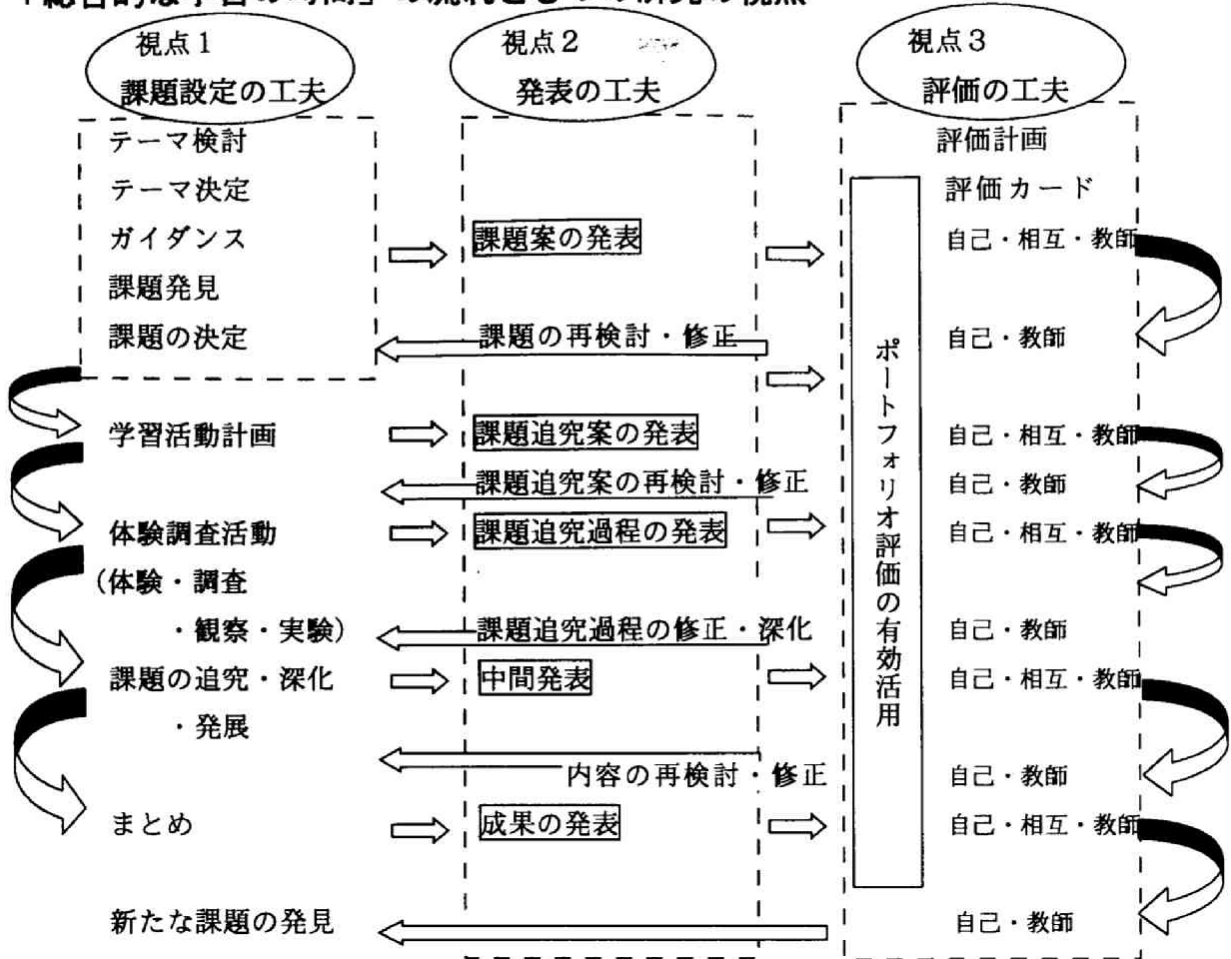
	必修教科	「総合的な学習の時間」
学習のねらい	学習指導要領に示された、各教科固有の目標を達成する。	各学校が学校や地域の特性を生かした特色ある学習を通して、 ア. 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる イ. 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする
学習の内容	学習指導要領に規定されている各教科ごとの学習内容を学習する。	各学校が創意工夫をこらして、国際理解、情報、環境、福祉・健康、生徒の興味関心、地域や学校の特色等について、自らテーマを設定し、自ら学習計画を立てて学習する。
学習の方法	各教科の教科書等の教材を使用して、各教科の特性に応じた多様な学習活動を工夫する。	各教科で身につけた基礎的な知識や技能を生かし、自然体験、社会体験、観察・実験、見学や調査、発表、討論、物づくり等の生産活動等の体験的な学習や問題解決的な学習を行う。

2 単元計画と柔軟な学習計画の構想

単元計画と学習計画の2段階による柔軟なカリキュラムづくりの流れ



V 「総合的な学習の時間」の流れと3つの研究の視点



◇「総合的な学習の時間」のテーマの役割とは

テーマは、「総合的な学習の時間」のねらいに即したものでなければならない。

また、テーマには、次のような役割がある。

- テーマは
- 生徒が、調査や体験活動を通して発見したことや、考えたことをまとめ、各自の課題を解決していくときの**目標や柱**となる。
 - 生徒がそれぞれに展開する課題追究の活動において、共通の問題などを相互に関連させることで、**より深い学習へ発展**させる。
 - 教科の枠を越えた教師集団や、外部の人材（ゲストティーチャーや地域の人）など、多くの人がかかりながら多様な学習活動が予想される中で、生徒を含め、学習にかかわる**全ての人に共通の方向性**を示す。

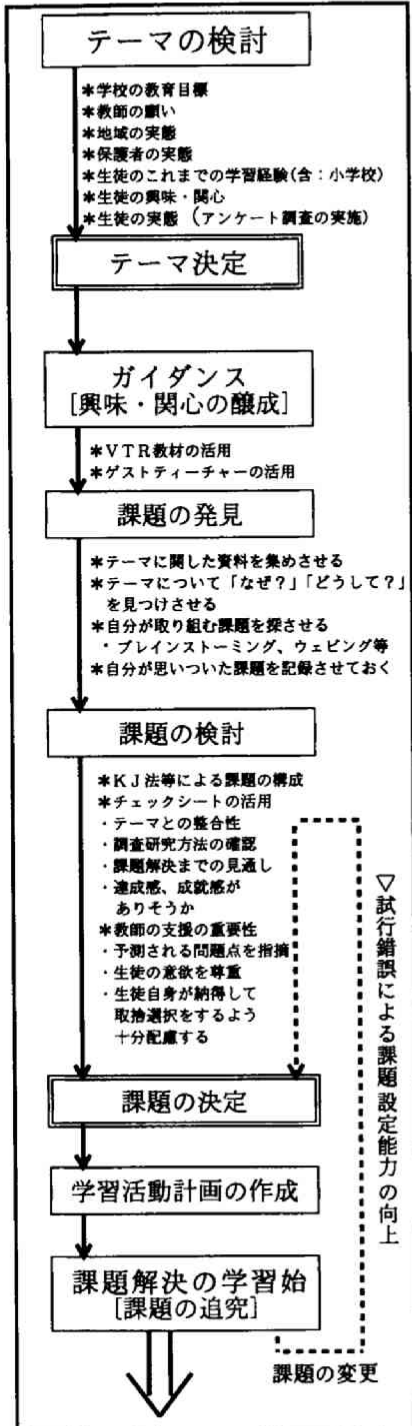
このように、テーマ設定は、「総合的な学習の時間」の一人一人の学習内容や周りの人々の支援など、全体を通じて学習の方向性を示す重要な役割がある。

「総合的な学習の時間」のテーマを学校の共通のテーマとして設けるか、学年か、学級か、生徒が設けるかは、各学校の裁量によるところである。今回は、教師の指導経験や生徒の学習経験がまだ浅いため、学校または学年単位で共通テーマを設定することを想定して研究を進めていくこととした。

1 課題設定の工夫

「総合的な学習の時間」において、生徒が課題を設定し学習を始めるまでの段階は、それ以後の学習意欲を支え、学習の見通しをもつ上で大切である。しかし、生徒が課題を見付けられない時に、教師はどのような支援をしたらよいか戸惑っている状況がある。そこで、課題設定の工夫として、テーマ検討から課題決定までの間に行う教師の支援について考えてみた。

図1 課題設定の概念図



(1) テーマ設定の工夫

各学校・学年で統一したテーマを設定する時には、生徒へのアンケート調査の実施など、生徒の興味・関心、それまでの学習経験（小学校での学習を含めて）などをふまえ、テーマを検討し決定するようにする。

(2) ガイダンスの工夫（課題追究への動機付け）

生徒へのガイダンスでは、テーマについて興味・関心を醸成させるため、テーマに関連したVTR教材の活用、ゲストティーチャーの招へいなど、生徒の内発的動機付けを心がける。

(3) 課題の発見

共通テーマから、生徒が自由な発想で課題についてのアイディアを出し合うように、ブレインストーミングやウェビングなどを活用し、生徒の創造性を開発する。

(4) 課題決定までの工夫

生徒が発想した課題の中から、実際に学習していく課題を選択するにあたって、生徒が項目を選んだり記入したりしていくだけで容易に考えをまとめられるような「チェックシート」を活用し、生徒が主体的に考え検討できるよう工夫する。

(5) 課題の途中変更も認めるゆとりが大切

実際に学習に取り組んでみると、事前によく考えて選んだはずの課題でも、様々な困難により行き詰まってしまうことがある。そのようなときに、教師の温かい励ましの言葉や、一緒に課題について考えるなどの支援により、課題に再挑戦していくか、あるいは思い切って課題の変更をするなど、心にゆとりをもって課題に取り組むことができるようにする必要がある。また、このような試行錯誤を繰り返すことにより、生徒は適切な課題を設定する能力が向上していくものと考えられる。

2 発表の工夫

(1) アンケート調査の結果

本研究のアンケート調査によると、「総合的な学習の時間」がつまらないと感じている生徒は14%あったが、その理由として、「発表するのが嫌いだから」と答えた生徒が多かった。また、発表するときに教師の支援を求めている生徒が多い実態も明らかになった。

(2) 発表のねらい

「総合的な学習の時間」における発表は、「ア 発表することにより新たな課題をとらえ直す イ 学習成果の共有化を図る ウ 豊かな自己表現力を身に付ける」ことをねらいとして行うものとする。よって、多様な発表場面や生徒の学習状況に応じて発表の機会を設定する必要がある。また、発表することで、表現する楽しさや伝えることの楽しさ、認められる喜びなどを実感し、そのことが自信となり、学習意欲の高まりが期待できるものとする。

(3) 具体的な工夫

① 多様な発表場面の設定

課題設定の段階では「決定した課題の発表」、課題追究の段階では「中間発表」、まとめの段階では「まとめの発表」の場面を設定し、意欲の高揚・継続を図る。

② 主体的に発表できるようにするための方法の工夫

いろいろな発表方法（表1）を紹介し、それらをヒントに自分の課題に適した発表の方法を選択させ、意欲的に取り組ませる。

③ ゆとりある時間設定

見通しをもって計画的に発表準備や発表ができるような時間設定を配慮する。

④ 外部の人材活用

◇発表する側として・・・パネルディスカッション（実践事例）など発表内容に応じて、外部の人材を活用する

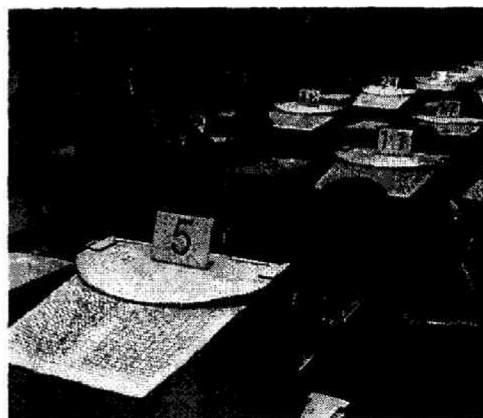
◇発表を聞く側として・・・保護者、地域、関係者などを発表会に招待する。

⑤ 参加者が選択する発表会

発表者は、いくつかのパートに分かれて同時に発表を行い、聞く側が、興味・関心のある発表を選択して参加する。

表1 発表方法の例

文字：模造紙 資料 製本 論文
作品（造形・音楽）：模型 工作
ポスター 写真 作曲
機器：OHC OHP VTR
コンピュータ デジタルカメラ
形態：スピーチ ディベート
パネルディスカッション



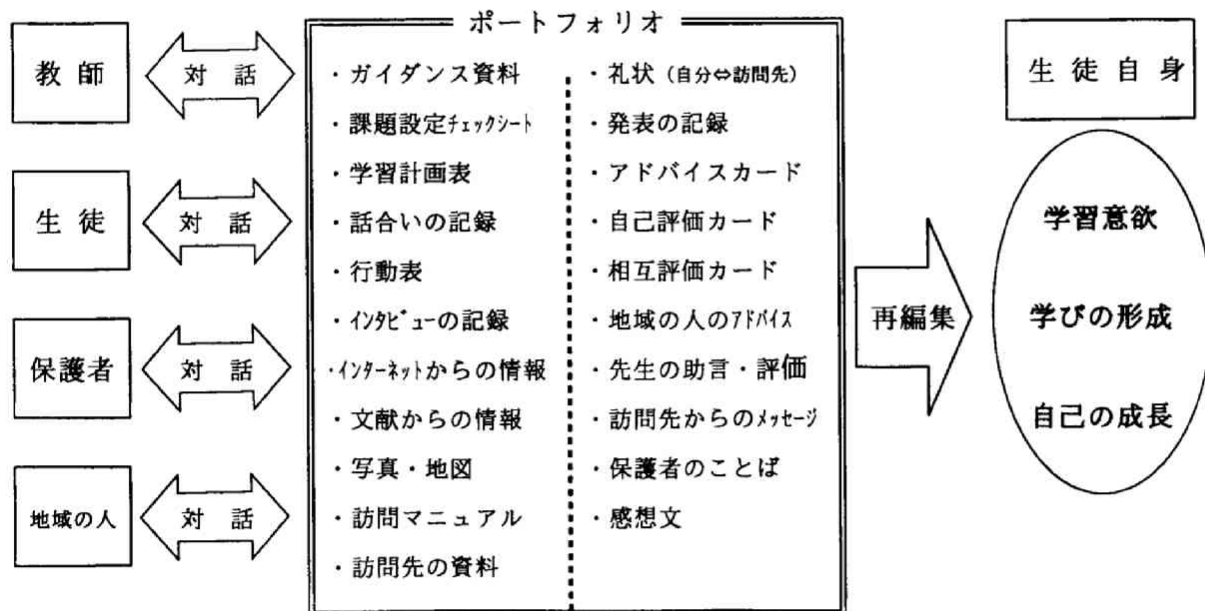
3 評価の工夫

研究主題のキーワードとなっている「楽しさ」を支える学習意欲は、生徒の学びの欲求と学ぶ意志であり、学習活動を引き起こす原動力である。よって、学習意欲を高め、継続させるためには、生徒の学習活動において自己評価を計画的に行い、それを効果的に機能させる必要がある。そこで、「総合的な学習の時間」の学習内容・方法の特性からポートフォリオを取り入れた効果的な評価の方法を追究することとした。

＜ ポートフォリオ評価と評価カード ＞

辞書によると、ポートフォリオ (Portfolio) は「紙ばさみ・書類を入れるケース」とあり、元来、書類などを入れるものと示されている。学校においては「生徒が学習活動に関する情報や資料を収集し編集する」いわゆる生徒が学習過程で蓄積した学習ファイルのことをいう。ただし、無作為に収集した資料や情報などをファイルするのではなく、自己の学習過程で蓄積したものを、自己評価や相互評価を行い、生徒が改めて編集し直していくことが大切である。その結果、ポートフォリオは評価のための資料として有効に機能するのである。教育課程審議会の答申では「総合的な学習の時間」の評価について、「生徒の活動や学習の過程、発表、討論などに見られる学習の状況や成果などについて生徒の良い点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況や態度を踏まえて適切に評価すること。」としている。このことから「総合的な学習の時間」においては、学習過程での生徒の評価活動は重要かつ不可欠である。そこで、生徒の評価活動をより効果的に実施するために、自己評価カード、相互評価カード、アドバイスカードなどを作成し活用した。活用にあたっては、全学習計画を通して継続的に自己評価を繰り返したり、発表など学習活動の節目となる時間に、当該の学習活動に合わせたカードで評価活動を計画的に実施した。このように生徒は評価活動を意図的に実施する中で、自己評価能力が身につくとともに自己の学習状況を客観的に判断したり、自己を見つめ、よさや可能性を発見するなど自己理解を深めることが期待できる。

図1 ポートフォリオ評価の活用図



VI 実践例

1 「課題設定の工夫」指導案①

- (1) 学校共通テーマ 「自ら切り拓く進路学習」 (2) 単元 「商品開発」
 (3) 単元設定理由

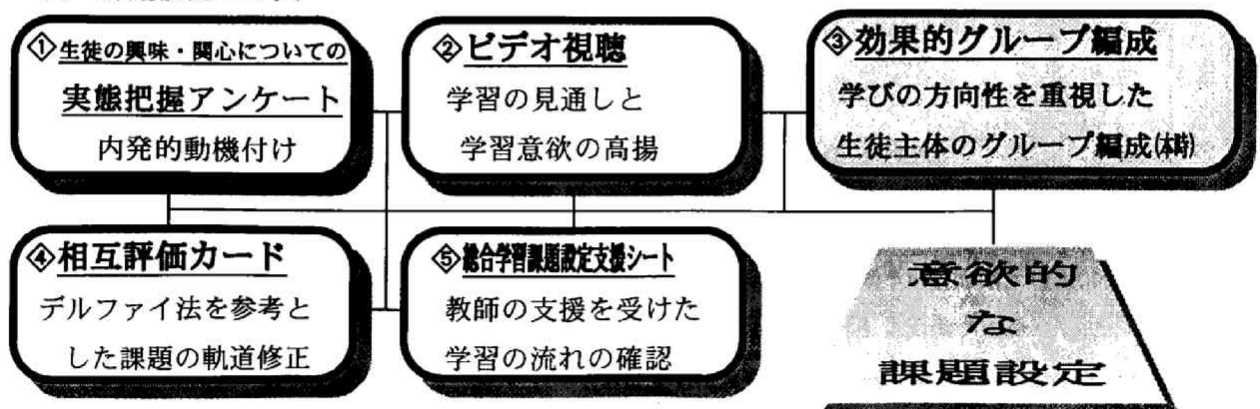
第2学年は、これまでの「総合的な学習の時間」の学習の深まりの中で、生徒から出された「商品開発案」を学年として取り上げた。「商品開発」の単元構成を身の回りの商品に着目し、「消費者の側に立った商品の見直し」「消費者のニーズに応じた商品開発」「開発商品の実現の可能性」「商品開発のCM作成・発表」として考えた。生徒は、これまでの学習経験や生活体験を基盤に、開発商品（課題）を決め、消費者（生徒、保護者、地域の人、高齢者など）とのかかわりを大切にしながら、課題探究に向けて主体的な学習を展開することが期待できる。また、「商品開発」という特性から、グループを企業に置き換えたり、デルファイ法（資料参照）を参考にした調査・評価方法の活用、開発商品のCM発表などの工夫により、生徒が楽しく意欲的に「商品開発」に取り組めるようにした。

(4) 指導計画

(○数字は学期内の授業時数小計)

学期	時数	学習計画	学習活動	意欲を支える指導法の工夫	生徒の興味関心を引き出す工夫	備考
1	1	実態調査	総合学習に関するアンケート実施	④アンケート(生徒)		
	3	動機付け		ビデオ・ゲストティーチャー	④ビデオ視聴	
	1	全体説明	学習計画説明		技術予測調査・ヒット商品	
	1	商品考案	アイデア考案	ブレインストーミング等	商品企画書	
	1	グループ編成	方向性重視のグループ編成	チームティーチング	④効果的グループ編成	本時
	1	発表・評価・助言	アイデア発表・相互評価	④相互評価カード	消費者の気持ち	
	1	商品の再思考		集団会議	バージョンアップカード	
⑩	1	課題の設定	商品再発表	発表形式	④最終プレゼンテーション	
2	3	調査・分析	商品調査・分析	街頭調査・調べ学習		
	2	商品決定	商品最終決定	発表形式	④最終プレゼンテーション	
	3	宣伝企画調査	宣伝方法研究と作成方法の探求	集団会議	宣伝企画書	
⑭	6	宣伝作成	CM等作成活動	取材・撮影等	ビデオ・新聞広告等	
3	5	最終プレゼンテーション	商品の提案	リハーサル等	CM・広告・実演等	
⑪	6	まとめ	自己課題再発見	発表形式	自己・相互評価	

(5) 課題設定の工夫



(6) 本時のねらい 「グループ編成」

- ① 生徒の主体的な話し合いにより、一人一人の課題が明確になるようなグループ編成を考える。
- ② 開発商品に対し企業(グループ)内で自由に意見やアイデアを出し合い、意欲的に学習する。
- ③ 企業(グループ)で出された意見を参考に、自分の課題の変更や再設定ができるようにする。

(7) 本時の展開

(35時間扱い6時間目)

	学習内容	学習活動 (予想される生徒の反応)	支援上の留意点 (☆評価の観点)
導 入	1 本時のねらいおよび 学習内容の確認 ①商品の方向性を重視した企業を作る。 ②企業内で話し合い、商品を決めていく。	1 学習内容を整理しながらワー クシートに記入する。	☆本時のねらいと学習内容 を理解し、学習の見通し がもてたか。
	2 集約結果(前時)の 確認 3 企業(効果的グルー プ)の編成 ◇予想される意見 A:好きなもの同士 B:対象者別 C:ジャンル別 等	2 それぞれの開発商品の内容 を確認する。 3 商品企画集約用紙をもとに、 意見を出し合う。	○開発商品のねらいを確認さ せる。 ○出された意見を黒板に掲示 し、グループ分けのヒントに する。 ○誰もがグループに入れるよ う支援する。
展 開	4 企業内での商品検討	①3～5名の企業を編成する。 ②課題の見つからない生徒は、 リバイバルバッグよりヒント を得るなど努力をする。 4 お互いが持ち寄った商品を 発表し、相互評価をする。	☆意欲的に活動し、企業編 成に参加したか。 ○個別に学習の方向性を確 認していく。
	5 企画書の作成及び、 企業内役割分担	①商品の比較検討をし、企業と しての開発商品を考案する。 ②商品企画書(個人または集団) を作成する。 5 企業内の役割を明確にする。	☆意欲的に意見やアイデア を述べ、協力しあって課題 を発見できたか。 ☆適切な役割分担ができた か。
ま と め	6 次回の授業内容の 予告	6 第1回開発商品発表の説明 をする。	☆今後の学習の見通しがも てたか。
	7 本時を振り返る	7 本時を振り返り、自己評価表に 記入する。	○開発商品作成や宣伝など にも更に興味をもたせる。 ☆ねらいが達成できたか。

* 商品企画集約用紙=前回作った個人商品企画書を、対象やジャンルごとに一覧表にまとめたもの。

* リバイバルバッグ=個人や集団で使わない企画書を、課題が見つからない生徒がヒントとして活用する。

* 自己評価表=生徒の学習を振り返りと、教師の支援の参考にする。

(8) 成果と課題

①実態把握アンケートでは、身近な商品に対する生徒の興味・関心が高まった。②「プロジェクトX」のビデオ視聴により、企業の商品開発の概要を知り、学習のイメージ化が図られた。③効果的なグループ編成では、生徒の発案によるジャンル別グループ編成が円滑にできた。④相互評価カードでは、グループを企業に見立てて企業の評価方法を取り入れたことにより興味・関心が高まり、意欲的な取り組みとなった。⑤課題設定支援シートを活用することにより、課題の検討がしやすくなり、また、学習に見通しがもてた。課題は机上プランの商品開発の具体化である。

Project V 商品開発企画書（集団）

- 企業名 ()
- 代表取締役 ()
社員 ()
- 商品説明
 - 商品名 ()
 - 対象 ()
 - ジャンル ()
 - 内容 ()
 - 開発の経緯 ()
 - セールスポイント ()
 - 価格 (¥)
 - 発売時期 () 頃
- その他（今後の計画・商品デザイン・素材・今後やるべきこと等）

総合学習課題設定支援シート

学校のテーマ _____ 年 ____ 組 ____ 番
 学年 _____
 自分が選んだ課題 _____ 氏名 _____

1. 課題を選んだ理由

順位	課題を選んだ理由（自分の中での順位を左の欄に記入する）
1	課題に関係した[]に、興味・関心があった。
2	学習の結果、[]のような、内容を知りたい。
3	今、[]のことで、(困っている・悩んでいる)。
4	その他 []

2. 課題について

確認事項	自己チェック	担当教員評価
課題は、テーマの内容に即しているか？	即して(いる ・ いない)	○ △ ×
〇ヶ月の間、調査研究を探めていけますか？	探めて(いける ・ いけない)	○ △ ×
最後に、まとめの発表ができそうですか？	発表が(できそう ・ できない)	○ △ ×

3. 課題解決に向けての調査研究の仕方

利用に○	調査研究のしかた	具体的な方法・内容について
学校内で	図書室で	
	インターネットで	
	アンケート実施	
	[]	
学校外で	[] 図書館で	
	[]	
	[]	
	[]	

*担当教員からのアドバイス

_____ サイン

(相互評価カード)
商品企画プレゼンテーション評価カード

企業名		商品名	
将来実現すると思いますか？	この商品は必要だと思いますか？	価格は適切だと思いますか？	この商品がほしいと思いますか？
A/B/C/D	A/B/C/D	A/B/C/D	A/B/C/D
アドバイス			

A=大変良い B=良い C=普通 D=もう少し
 ポイント換算 A=100 B=75 C=50 D=25
 ※デルファイ法を参考とした相互評価カード



＜資料＞デルファイ法とは？

- ☆ 経済企画庁が発表する「技術予測調査」の裏付けとなる評価方法である。
- ☆ 多数の専門家に対して同一質問票によるアンケート調査を繰り返し、回答者の意見を収斂させる。1回目の調査結果が回答者にフィードバックされるため回答者は全体の意見の傾向を見ながら自己の回答を再評価することができる。

⇒ 生徒が設定する課題（商品開発）が、「学習のねらいに合ったものであるか、実現可能なものであるか」などを周囲が相互評価する。（数回実施）

2 「発表の工夫」指導案②

(1) 学校共通のテーマ 「生き方を考える」

(2) 単元 「職場体験」

生き方を考える	年	主な学習内容	月	主な学習内容	時間数
			1	・「職業調べ」 ①調べ学習（図書室、インターネット） ②職場訪問 ③まとめと発表 【10時間】	9月
2	・「職場体験」 ①保育園や地域の企業35社 ②事前、事後学習 ③まとめと発表 【25時間】	10月	・PTA・地域商店連合会に 受け入れ依頼 ・体験企業調整と決定	1	
3	・「上級学校調べ」 ①調べ学習 ②学校訪問 ③まとめと発表 【6時間】	11月	・自己紹介書作成 ・生徒の企業訪問、挨拶	3	
			12月	・職場体験学習 ・まとめ、冊子作り、お礼状書き	12
			1月	・パソコン実習（プレゼンテーション） ・クラス発表会	5
			2月	・お礼ディスカッション（本時） ・まとめ	2

◎これまでの職場体験学習発表会の成果

- ア 全員がコンピュータを使って発表を行い、情報処理能力や情報技術が身に付いた。
- イ プレゼンテーションによる発表会を実施し、発表技術が向上した。
- ウ 発表会を通して、働くことの意義、職業の種類、職業選択についての知識が身に付き、考え方が深まった。
- エ 地域の企業で職場体験学習を実施したことで、発表会に企業関係者の参加があるなど、地域との相互理解が深まり、連携が強化した。
- オ 保護者会に合わせて発表会を実施し、多くの保護者の参加を得ることができたことで、保護者の理解や協力がいっそう深められた。
- カ 発表することが生徒の自信につながり次の学習への意欲が高まった。

◎プレゼンテーションによる発表会を行うことで期待できること

生徒が、楽しく「総合的な学習の時間」を進めるには、学習したことを発表し、他から認められる喜びや、自己の学習成果に対する満足感や充実感を自ら感じる大切であると考え。さらに、地域や保護者、企業など、周りからのサポートが得られたり、見守られたりすることにより、生徒たちは安心感と自信をもって、課題解決学習に取り組むことができるようになる。また、生徒にとって発表会は互いの学習成果の共有化を図る場、ならびに新たな課題設定を考える場になると考える。

(3) 本時のねらい 「職場体験発表会」(パネルディスカッションを通して)

- ① 職場体験学習の経験を生かし、自分の将来の進路や職業について発展的に考え、より自己の問題、課題としてとらえる姿勢を持つために、それぞれの分野のスペシャリストの話聞き、より深く自分の生き方について考える。
- ② 発表会を通して自己の進路に関する新たな課題を発見する。
- ③ パネルディスカッションを通して考えを深める。
- ④ 一年生も発表会に参加し、次年度の職場体験学習の課題を発見する。

(4) 本時の展開

(25時間扱い24時間目)

	学習内容	学習活動	○支援上の留意点 ☆評価の観点
導入	司会(生徒2名) 1 本時の学習の内容、パネラーの紹介と説明	1 パネラーについて理解をする	○前もってパネラーの紹介文を配布しておく
展開	2 生徒代表による職場体験のプレゼンテーション(3グループ) 3 パネラーによる発表 ・ 企業代表 …「企業が求める人間像」「職場体験学習で生徒に望むもの」「職場体験学習を終えて」 ・ ハローワーク …「今、社会は」「就職の現状と将来」 ・ 高校進路担当 …「高校生の進路に対する考え、現状」 ・ 地域代表 …「職場体験と地域」「地域から見た中学生」 ・ 保護者 …「職場体験学習に望むもの」「保護者の願い」 ・ 教員 …「体験学習」「地域・保護者との連携」「生徒の意識調査」 4 討論・質問	2 他のグループの体験内容、学習成果を確認 3 パネラーの発表を聞く ①各パネラーの意見をまとめる ②自己の考えをまとめる ③質問事項を考え、質問する ④他の生徒の質問や、パネラーの回答などをよく聞き、考えを深める	☆意欲的に、わかりやすく発表することができたか ☆発表者の考えを理解できたか ○自己評価シートを作成し、観点を明確にして評価させる ☆パネラーの意見を積極的に受け止め、理解できたか ☆パネラーの意見に対する自身の考えをもつことができたか ☆討議に積極的に参加できたか ☆パネラーの発表は効果的であったか ○質問の観点などを示唆する ☆討論を通して、自身の考えを深めることができたか
まとめ	5 まとめ 生徒によるまとめ、感想発表	5 パネルディスカッションを通して、感じたことを書く	○次のテーマについて等、今後の発展性をふまえさせる

(5) 成果と課題

- ① 保護者、地域、関係諸機関、生徒、教員が同一の場所で発表、討論ができた。
- ② 生徒はより具体的、個人的な課題が発見できた。
- ③ 体験学習・発表が課題発見の場として有効に機能した。
- ④ 様々な立場や職業に就いている人の発表を聞くことにより、働くことや職業選択についてより深く考えることができるようになった。
- ⑤ 発表技術が向上した。
- ⑥ ディスカッション能力の向上は課題である。

3 「評価の工夫」指導案③

(1) 学校共通テーマ 「地域に生きる」 (2) 単元 「地域（銀座）を知ろう」

(3) 単元設定の理由

本校は銀座の地にある。銀座は、国際性にあふれる文化・伝統の町であり、世界の文化・商品・情報が満ちあふれている。このような地域の中で生活している本校の生徒たちが、銀座という地域を身近に感じ、地域理解を深めることを願っている。そこで、「総合的な学習の時間」のねらいに沿って、生徒が「銀座を知ろう」をテーマとして、自己の興味・関心のある学習課題を設定し、課題解決を図る学習を実施することとした。学習を進めるにあたり、「総合的な学習の時間」の特性から、生徒の学習過程が学習ファイルとして蓄積されるポートフォリオを活用し、生徒が、「課題発見」「課題決定」「課題解決」「まとめ・発表」「新課題発見」の学習過程において、自己評価活動を継続して行うことで、自己評価能力を育てることとした。

(4) 第2学年指導計画


回	時間数	項目	活動内容	評価の観点	評価者
1	1	ガイダンス	学習のねらい、内容・方法の理解	☆課題設定能力	記・教師
2	2	「課題発見の旅」	フィールドワーク	☆学習の意欲	記・教師
3	1	「課題発見の旅」 のまとめ	発見した課題の発表準備	☆コミュニケーション能力 ☆課題設定能力	記・教師
4	1	「課題発見の旅」 の発表会（本時）	現段階での課題について発表 他からの意見参考による課題検討		自己・相互・教師
5	1	課題決定	自己の課題決定 目的・調査内容 調査方法の考案 発表の見通し		自己・教師
6	1	決定課題の発表 会	決定した課題の発表 意見交換、課題の修正考慮		自己・相互・教師
7	16 → 13 14	学習（調査）計 画	課題解決に向けて調査内容 必要資料、調査方法の計画	☆学習の意欲 ☆コミュニケーション能力	自己・相互・教師
8		調べ学習準備	立案、調査活動、情報収集	☆課題解決能力	
9		情報収集、調査 まとめ	情報活用、調べ学習のまとめ	☆情報収集・ 活用能力	
10		修正	修正 関係者への礼状など		
15	8 16 17 18	発表準備	発表準備、発表原稿作成	☆学習の意欲	記・教師
16		報告書作成		☆情報活用・ 発信能力	
17					
18					
19	1	発表会（学級）	学級内発表会	☆表現力	自己・相互・教師
20	2	発表会（学年）	学年内発表会		
21	1	新しい課題の発 見（来年度へ）	学習成果の振り返りによる新たな 課題の発見（来年度へ）	☆課題設定能力	自己・教師

(5) 本時のねらい 「『課題発見の旅』発表会」

- ① 自分の発見した課題を学級の他の人にわかりやすく伝える。
- ② 他人の発表を聞き、良い面を発見したり、疑問点を質問したり、アドバイスをする。
- ③ 自分の課題決定についての問題意識を深める。

(6) 本時の展開

(35時間扱い5時間目)

	学習内容	学習活動	○支援上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 本時のねらい および学習内容 の確認	1 本時の学習内容の説明を聞き、 発表会の進め方や参加の心得 を理解する。	○前時の授業での複数の課題候 補や課題選択理由のまとめを 参考にさせる。
展開	2 発見した課題 の発表会 3 発表した課題 への質問・ アドバイス 	2 ①自分の課題を発表する。 ②他人の課題の発表を聞く。 3 発表した課題について質問や アドバイスをします。	☆工夫して発表できたか。 ☆わかりやすく内容を伝えるこ とができたか。 ☆意欲的に発表することができ たか。 ☆他人の発表を意欲的に聞く ことができたか。 ☆他人の良い面を発見するこ とができたか。 ☆進んで意見やアドバイスでき たか。
まとめ	4 発見した課題 の検討 5 アドバイスの 記入	4 他人の意見やアドバイスを 参考に、課題を再検討する。 5 「学び合いアドバイスカー ド」に記入し、発表者に渡す。	☆他人の発表から、自分の課 題決定のヒントをつかむこと ができたか。 ☆適切なアドバイスができたか。 ○アドバイスカードを記入させ 次時の課題設定のヒントとさ せる。

学び合い **アドバイスカード**

_____さんへ

平成 年 月 日 () _____より

《参考資料》

* 学び合いアドバイスカード *

発表を聞き、気がついたことをア
ドバイスカードに記入し、
当該の発表者に手渡す。
カードはあらかじめ発表者分配布
しておく。

(7) 成果と課題

アドバイスカードや評価カードが効果的に活用され、課題決定に役立っていた。
課題はゆとりをもって生徒がカードに記入できる時間の確保である。

資料1

《自己評価カード》

2年 組 ()

学年テーマ：「地域（銀座）を知ろう」 課題：

氏名

月 日 第 回 学習内容：「課題発見の旅」の発表会

No.	評価目標	基準		
		A=よくできた	B=できた	C=もう少し
1	発表内容を上手にまとめることができる	A	B	C
2	発表を工夫をし、上手に内容を伝えることができる	A	B	C
3	意欲的に発表に取り組むことができる	A	B	C
4	発表を興味・関心をもって聞くことができる	A	B	C
5	発表の中から課題決定のヒントをつかむことができる	A	B	C
6	発表の良い面を発見することができる	A	B	C
7	マナーよく発表会に参加できる	A	B	C

《相互評価カード》 発表者

記入者

2年 組 ()

学年テーマ：「地域（銀座）を知ろう」 課題：

氏名

月 日 第 回 学習内容：「課題発見の旅」の発表会

No.	評価目標	基準		
		A=よくできた	B=できた	C=もう少し
1	発表に工夫に見られたか	A	B	C
2	はっきりとわかりやすい発表であったか	A	B	C
3	発表に対し意欲的であったか	A	B	C

【発表会に対する感想を書きましょう】

《教師の補助簿》

*毎回の授業観察により、気がついた生徒や観点について評価のメモ（ABC）をする。

番号	氏名	第 1 回			第 2 回			第 3 回			第 4 回		
		観	心	意	観	心	意	観	心	意	観	心	意
		点	意	欲	点	意	欲	点	意	欲	点	意	欲
1													
2													
3													

資料 2

(自己評価カード)

2年 組 ()

学年テーマ「地域(銀座)を知ろう」 課題『 』

氏名 _____

学習の流れ		課題設定(7時間)					課題解決(16時間)								発表・課題再発見(12時間)								
観点	評価規準	回	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
		月/日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
楽しさ	大変楽しく学習できた																						
	楽しく学習できた																						
	少し楽しく学習できた																						
意欲	大変意欲的に学習できた																						
	意欲的に学習できた																						
	少し意欲的に学習できた																						
よさの発見	自分の良さに気づいた																						
	学習のねらいを理解し目的意識を高める																						
課題設定	発見	地域に興味・関心を持つ																					
	決定	興味・関心のある課題が発見できる																					
	修正	課題が適切か検討できる																					
		学習したい課題を決定できる																					
課題解決	個人	学習計画を立て学習の見通しをもつ																					
		必要な情報を収集・活用できる																					
	集団	調査方法を工夫することができる																					
		地域の人と積極的にかかわる																					
発表	発表者	仲間と協力し合って学習できる																					
		仲間にアドバイスができる																					
	他の人のアドバイスを生かせる																						
課題再発見	参加者	計画的に発表準備ができる																					
		わかりやすく発表できる																					
	再発見	工夫して発表できる																					
		興味・関心をもって聞くことができる																					
発表	参加者	発表内容を理解できる																					
		マナーよく発表会に参加する																					
	再発見	自分の意見が言える																					
再発見	自分や人の発表から新たな課題が発見できる																						

*楽しさと意欲を毎回自己評価し、グラフにして変容を探る。
*自分の良さについては発見できた

*学習内容に合わせて、観点別に自己評価を行う。
*評価基準は
A=よくできた
B=できた
C=もう少しとする。

まとめ・反省・感想	※第6回目の学習時に、自己の課題設定を振り返り、反省・感想を記入する	※第10回目の学習時に自己の調べ学習について振り返り、反省・改善点などをまとめる	※第14回目の学習時に自己の学習状況について振り返り、反省・感想を記入する	※第19回目の学習発表会時に反省・感想を記入する	※第20回目の学習発表会時に反省・感想を記入する	先生より一言

VII 成果と課題

本研究は生徒一人一人が学習意欲に支えられて楽しく学習する姿を求めて、課題設定、発表、評価の3つの視点からそれぞれ工夫を行い、授業を通して検証をしてきた。その結果、以下のような成果と課題に至った。

1 成果

(1) 課題設定の工夫

- ① 職場体験学習においては、地域の活動や産業に自己の課題を関連させることにより、意欲的に学習を進めることができた。また、地域とのかかわりを深めるとともに地域への所属感をはぐくむことができた。
- ② 学習活動に入る以前に、生徒の興味・関心について意識調査を行い、それに基づいたテーマを設定をすることによって、生徒の意欲的な活動が促進された。
- ③ 課題設定の段階でVTR教材やゲストティーチャーによる講話など、生徒の興味・関心をより高める工夫を行うことにより、生徒たちは意欲をもって課題設定に向かうことができた。

(2) 発表の工夫

- ① 目的意識が同じ仲間の小人数の学習集団活動であったため、討論が活発に行われ、学習への理解を深めることができた。
- ② 学習の流れを生徒自身に考えさせることで生徒の主体的学習が意欲的に展開された。
- ③ 地域の人とのかかわりや様々な体験をすることで、視野を広げ自己の生き方を発見する契機となった。
- ④ 小人数のグループ学習のため、互いに発表に対する意見を出し合いながら発表を工夫することができた。
- ⑤ 発表会では全員がコンピュータを利用してプレゼンテーションを行い、表現方法の幅が広がり内容の高まりが見られた。
- ⑥ 各教科の課題解決学習においても、解決に至るまでの計画の立案や資料の収集、情報の活用などの面で創意工夫が感じられるようになった。
- ⑦ プレゼンテーションによる発表を行うことにより、コンピュータの学習時間を確保したことは効果的であった。

(3) 評価の工夫

- ① ポートフォリオを活用することにより、生徒や教師の評価活動が円滑に進んだ。
- ② 毎回の学習活動を自己評価カードを活用して自己評価を継続することにより、生徒の楽しさ・意欲・学習の深まりに変化が見られた。
- ③ 自己評価を主な評価活動として実施することにより、生徒は自分の学習を振り返り自己の学習内容を軌道修正して自分の良さに気付くようになった。
- ④ 自己評価と相互評価を意図的に組み合わせることにより、生徒は形成的な評価をすることができ、自由に学習計画を組み立て、または変更する姿勢をもつことができた。
- ⑤ 発表場面で互いに発表を聞きながら「学び合いアドバイスカード」を書くことにより、普

段発言することが苦手な生徒もメッセージを発信でき、仲間同士のかかわり合いが深まった。また、自己の今の課題の解決に役立った。

- ⑥ 1枚の自己評価カードで学習活動を毎回評価することができ、生徒の意識の変容と学習過程を系統的に判断することができた。

(4) その他

- ① コンピュータを活用した学習が多く展開され、情報収集、活用、発信能力や表現力の育成に成果が見られた。

2 課題

(1) 課題設定の工夫

- ① 生徒が主体的に学習活動を展開するには、「なぜ(目的)、何を(内容)、どのように学習するのか(方法)」をしっかりと理解するために、ガイダンスをより入念に行う必要がある。

(2) 発表の工夫

- ① 教師が生徒に十分な支援ができるような発表に関する知識やアイデアを豊富にもつ必要がある。
- ② 発表を学校内の関係者だけでなく、学校外の人との協力を得るよう積極的に地域に働きかける必要がある。
- ③ 課題意識を持続できない生徒に対して発表活動に向けた効果的なアプローチの工夫が必要である。
- ④ 適切な発表方法が見つからずに行き詰まる生徒には、発表方法の工夫を提示するとともに、一緒に教師が考えるなどきめ細かい支援の在り方が求められる。

(3) 評価の工夫

- ① ポートフォリオ評価は教師と生徒の相互にとって有効であるので、さらに活用方法を工夫する必要がある。
- ② 「総合的な学習の時間」を進めるためには、自己評価が重要と考えられるので生徒の自己評価の方法についてはさらに工夫する必要がある。
- ③ 自己評価カードや相互評価カードの効果的な活用場面や方法についてもさらに検討をしていく必要がある。

(4) その他

- ① 組織的な校内体制づくりを行い、指導計画や授業内容を綿密に作成し、学校全体や学年で共通理解を図る必要がある。
- ② 「総合的な学習の時間」を実施するには保護者や地域との相互理解が必要である。
- ③ 情報処理能力、表現能力に関するスキルを向上させていくためのカリキュラムを組む必要がある。また、「総合的な学習の時間」における知識・技能の基礎・基本を、教科の中で培うことも必要である。
- ④ 小学校の「総合的な学習の時間」の取り組みや小学校との連携などを配慮して、中学校3年間を見通したカリキュラムを作成する必要がある。

3 提案

「総合的な学習の時間」の実施時数を1年＝70時間、2年＝85時間、3年＝95時間と想定して、以下のように実施について考えてみた。

(1) 年間指導計画(例)

週時程は固定型と時期集中型の組み合わせを考えた。以下の表のうち、全学年35時間を固定型と設定し、残りの時間を学習内容に合わせて、時期集中型とした。

テーマ	共に生きる	生き方を考える	課題解決型学習	課題時数
内容	1年;課題解決型学習 2年;体験学習 3年;交流学習	1年;職場訪問 2年;職場体験 3年;上級学校訪問	1年;地域調べ学習 2年・3年;自由課題	
1年	・障害に関する調べ学習 (図書館、図書館、養護学校等の職員へのインタビュー、地域でのインタビューなど) 学習新聞づくり 【25時間】	・職場訪問 図書室・図書館での調べ学習 地域でのインタビュー 【10時間】	・地域調べ学習 地域の産業や歴史 学校の歴史【35時間】	【30時間】
2年	・手話体験、点字体験、疑似体験(輪子、数珠) ・バリアフリー調査(地域) ・障害のある方からの講話 【25時間】	・職場体験 地域の事業所、消防署、駅、病院、運輸、NTT 幼稚園、保育園、高校、動物園など 【25時間】	・自由課題;自分でテーマを見つけ、調べたことを発表しよう【35時間】	【70時間】
3年	・養護学校教諭の講話 ・特別養護老人ホーム職員の方の講話 ・養護学校を訪問または招待しての交流学習 ・特別養護老人ホームでの交流 【30時間】	・上級学校訪問 調べ学習 学校訪問 【30時間】	・自由課題;自分でテーマを見つけ、より深く調べ、考えことを効果的に伝えよう【35時間】	【140時間】

(2) 単元名「共生」(例)

福祉、ボランティアの考え方を基本として、21世紀に生きる生徒たちが、障害のある人や高齢の人など、様々な生き方にふれさせ、生命の尊さ、思いやりの心など、豊かな人間性を育てるとともに、共に生きることについて、深く考えさせる。

(3) 評価の観点、規準・基準(例)

【観点】	【規準】 以下の規準のうち、各校のテーマに沿ったものを適宜抽出するものとする。	【基準】
学習の関心・意欲・態度	・自ら意欲的に学習活動に取り組める。	自己評価を中心に、以下のようにより3段階を基本としていく。 A 満足できる B おおむね満足できる C 努力を要する
課題発見能力	・身の回りの人や環境に興味・関心をもち、課題を発見できる。	
課題設定能力	・自己の適切な課題を設定できる。	
コミュニケーション能力	・他とのかかわりを深め、他の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりする。	
自己の生き方	・自己の考えを深められる。	
課題解決能力	・調査方法、学習用具など、効果的に工夫または使用できる。	
情報処理能力	・必要な情報を収集、活用、発信することができる。	
自己表現力	・自己の考えを意欲的かつ効果的に表現できる。	

(4) 評価計画(例)

テーマ「共生」第3学年

順	学習活動	評価の目的	評価者	教材等
①	2 ガイダンス	・身の回りの事柄に興味・関心をもてたか	自己、教師	アンケート、記録紙
②	1 グループに分かれて、各自のねらいの明確化	・自ら適切な課題を設定できたか ・他の課題を意欲的に理解できたか	自己、相互、教師	ワークシート
③	2 講話を聞き、感じたことをまとめ、発表する	・講話を積極的に聞き、理解できたか ・交流に関する関心を深められたか	自己、教師、講師	ワークシート 発問
④	2 他の意見を知り、視野を広める	・他の考えを理解し、視野を広められたか	自己、教師	ワークシート
⑤	4 交流活動1	・積極的に交流することができたか	自己、相互、教師、交流者	ワークシート、観察
⑥	2 交流活動を通して感じたことをまとめ、自己の考えを深化させる。	・体験を通して感じたことをまとめることにより、考えを深めることができたか	自己、教師	ワークシート
⑦	4 交流活動2	・自ら意欲的に交流することができたか	自己、相互、教師	ワークシート、観察
⑧	2 総合的な学習の時間における今回の取り組み全体を通して、感じたりしたことをまとめる。	・これまでの学習活動全体を通して体得したものを体感し、考えを深められたか	自己 教師	ワークシート
⑨	8 感じたことを発信するための準備をする。	・積極的に発表の準備をできたか ・発表方法に工夫が見られたか	自己、教師	ワークシート
⑩	2 発表活動	・進んで自らの考えを表現できたか ・積極的に他の考えを理解したか	自己、相互、教師、 発表会参加者	ワークシート 観察
⑪	1 全体のまとめと評価	・客観的に、自己評価することができたか	自己、教師	評価用紙

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号〕

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン